

尾瀬ネットワーク通信

Vol 1 2. No. 2 2009年8月



目次	
至仏山登山道付け替え新たな動き	…1
群馬側第1回入山指導実施	…2
福島側第1&2回入山指導・添乗解説	…2
野生シカ調査	…3
福島側第3回入山指導・添乗解説	…3
尾瀬自然講座 ウメバチソウ	…4
お知らせ	…4
事務局だより	…4

至仏山登山道の付け替えに新たな動き

～科学的調査に至仏山環境調査専門委員会を設置～

理事長 永島 勲

環境調査専門委員会の目的

7月21日「至仏山環境調査専門委員会」の第1回会議が東京で開催され、傍聴する機会を得た。

この専門委員会は従来の至仏山環境共生推進計画調査専門委員会に代わるもので、そのメンバーも一部入れ替わり学識経験者、日本自然保護協会、群馬県、環境省、東京電力など9名の錚々たる方が名を連れている。委員長に小泉武栄氏（東京学芸大学教授）が選ばれ、事務局は尾瀬保護財団が担当する。

専門委員会の目的は至仏山保全基本計画における登山道の付け替え（迂回ルート）候補地（注を参照）の環境負荷の科学的調査を3年間で行い、その結果を至仏山保全対策会議に報告することにある。



広範囲に深刻な荒廃が進む東面登山道（標高1800m付近）

至仏山保全対策の経緯

至仏山東面登山道（山頂～山の鼻2.9Km）は、入山者の安全確保と荒廃した登山道の整備のため平成元年から8年間、閉鎖されていた。

ネットワークは閉鎖解除直後の平成9年8月から10年間、東面登山道の実態調査を行い、壊滅的な状況を公表し、保全の必要性を訴えてきた。平成14年5月に至仏山保全緊急対策会議が尾瀬保護財団等により設置され、登山道周辺の植生荒廃や裸地化（土壌や泥炭の流失）など深刻な状況に対する保全対策の検討が始まった。

平成15年度から2年間、従前の専門委員会や

日本自然保護協会により科学的な調査が実施され、至仏山保全基本計画が策定された。これを受けて平成17年度に実施計画の具体化・意見集約を行い、平成18年度以降に保全対策を実施する計画であったが、平成17年度以降は具体的な動きがほとんどなく、今日まで5年間放置されていた。

東面登山道の再開鎖と入山規制

保全基本計画には「科学的根拠に基づき生態系保全を第一に考え、それが損なわれない範囲の中で利用のあり方を考える。」とある。踏圧や浸食に強い尾根沿いへの登山道の付け替えと併せて荒廃著しい東面登山道は再開鎖して植生の保全と復元を図るべきである。

東面登山道が上り専用的一方通行となったため、鳩待峠からの南面登山道の負荷が従来にまして増えている。至仏山は自然公園法に基づく「利用調整地区」の指定を行い、入山者の総量を規制し人為的影響を最小限にして、氷河期残存植物のオゼソウなどに代表される貴重な生態系を保全することが極めて重要である。

（注）荒廃した登山道の付け替え候補地

- ①オヤマ沢田代
- ②小至仏山南面の雪食凹地（雪田植生）
- ③至仏山頂～高天ヶ原下部の雪食凹地や風衝地

活 動 報 告

群馬側 第1回入山指導実施報告

群馬側担当理事 清水 博之

- 日時：2009年5月16日(土)
8:00～9:30 鳩待峠
9:30～15:00 鳩待峠～山の鼻～尾瀬ヶ原
- 状況：

① 鳩待峠までの交通規制が5月22日からのこともあって、鳩待峠にはマイカーが30台<下>～50台<上>ほど駐車していた。

入山指導は、今回から鳩待峠でテーブルを活用したこともあってか、多くの人達が立ち寄ってくれた。<70名ほど>



天候は、下り坂で残雪もあり全体的には入山者は少なく、児童はきわめて少なかった。また、軽装者も目立たなかった。

- 鳩待峠から山の鼻までの木道は、1/3位が雪で覆われていた。山の鼻ビジターセンター付近には40～50cmの積雪があったが、尾瀬ヶ原には殆どなかった。
 - 残雪期に入っていたことから鳩待峠登山口に、至仏山登山禁止の表示とロープが張られていた。
 - 尾瀬ヶ原では、三叉路までの間「ゴミ拾い」を行った。休憩所周辺で菓子類の包紙が目立った。
 - 川上橋～山の鼻までの木道が、整備されていた。(H20環の押印)
 - 戸倉第一駐車場前にダム関係で造られた「尾瀬ぷらり館」が、4月1日にオープンした。このぷらり館は、尾瀬の歴史や生態系などの説明パネル等展示され、小・中学生向きの感じがした。また、入浴施設も併設されているとのこと。
3. 参加者：伊藤アケミ、大山昌克、坂本敏子、清水博之、松澤登

福島側 第1回入山指導・添乗解説・資金カンパ活動 ～自然観察会～

福島側担当理事 円谷 光行

- 日時：5月30日(土)～31日(日) 7時～11時
- 場所：尾瀬御池～沼山峠(会津バス添乗にて)
- 自然観察会：30日 正午～3時 御池田代・姫田代・上田代湿原
- 資金カンパ活動金額：13,100円

前夜7ヶ月ぶりに常宿「ひのき屋」へ次々と到着、いつも疲れを見せない元気な姿の女将さんと

家族の笑顔で迎えられました。

翌朝7時に尾瀬御池に到着し、啓発活動用テーブルや看板を置いて頂いている御池ロッジと添乗解説で温かい協力を頂いている会津バス乗車券販売所や運転手に、今年一年の活動あいさつをいたしました。

山の駅御池の駐車場前に活動用テーブルをセットし、ミーティングを行って本格始動。添乗解説は、毎回トップバッターが初谷さん、独特の口調での解説はハイカーに人気があります。続いての解説は、私が行きますと次々と申し出での頼もしいシーンでした。

テーブルの前では、入山指導はじめゴミ袋の提供やピンバッジの資金カンパ活動。ハイカーへのバス乗車前にリーフレット配布など活気に満ちた活動を展開しました。

午後は上田代までの観察会。特に御池田代湿原は、年々シカによる「ヌタ場」で荒らされている箇所が増えていることが確認できました。

この周辺の山中には、シカの捕獲を行うため、今年から環境省により「足くくりわな」を設置してであると表示されていました。

その捕獲状況について尾瀬ビジターセンターで確認しましたが、不明でした。

姫田代・上田代湿原においては、シカによる被害等は見られませんでした。

参加者：永島 勲、磯部義孝、高橋 喬、松前 雅明、初谷 博、小林ミヨ、亀山良吉、藤田隆美、円谷光行、

福島側 第2回入山指導・添乗解説・資金カンパ活動 ～第1回大江湿原ニッコウキスゲ生育状況調査～

福島側担当理事 円谷 光行

- 日時：6月13日(土)～14日(日) 7時～11時
- 場所：尾瀬御池～沼山峠(会津バス添乗にて)
- 第1回調査活動：13日 13:10～14:30
- 資金カンパ活動金額：19,000円

入山指導、添乗解説は前回同様に行われました。

特にネットワーク活動資金のため行われているピンバッジの資金カンパは、ハイカーへの呼びかけにより多くの方々が快く協力してくれます。尾瀬ネットワークのシンボルマークであるオゼコウホネのピンバッジは世界でひとつであり、一人ひとりのご好意は保護活動への理解の代償と受け止めています。

ここ数年、大江湿原におけるシカによる食害が酷くなったため、福島側でも初めての調査を行うことになりました。詳しい調査結果については、調査表にまとめて報告することにいたします。今回は活動概況をお知らせいたします。

調査方法は写真の通り、1平方メートルの枠内に生育しているニッコウキスゲの発芽及び開花状況を調査することです。6月は発芽状況とシカによる食害状況を調査いたしました。踏査が進むにつれ発芽したばかりの若芽が多く食べられていることに驚きと今後どうなるか不安を覚えました。



踏査場所は、大江湿原入り口から三本カラマツまでの木道周辺上下線18カ所を定め、木道右脇に番号を記入しました。

1. 大江湿原入り口(4)、 2. 小沢沢田代分岐点(4)、 3. ヤナギラン分岐点(4)、 4. 2と3の中間地点(2)、 5. 三本カラマツ分岐点(4)

特徴として昨年までは木道沿いはあまり食害されていなかったが、今年は目立つ様になりました。

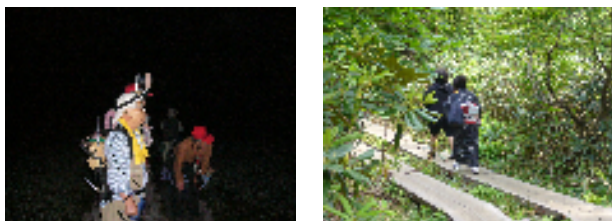
参加者：坂本敏子、大橋文江、小林ミヨ、
亀山良吉、藤田隆美、円谷光行、

野生シカ調査報告

担当理事 前田 佳胤

当NWが10年にわたって尾瀬ヶ原で直接「湿原」や「植生」に大きな影響を与える可能性がある野生シカの頭数調査も平成21年が一つの区切りとなります。

6月27日(土)夜、今年第1回目のライトセンサス法による調査が尾瀬ヶ原で行われました。いつもは山の鼻から竜宮に向けて概ね200mごとにライトを照射して白く光るシカの目をカウントしていますが、同じ時間に環境省のパークボランティアも調査を予定していたため、逆に竜宮を20時に出発し山の鼻に向かいました。



この夜は曇ってはいましたが雨も降らず、月齢43、夕月のやや明るい尾瀬ヶ原をビームランプを照射しながら移動、山の鼻方向からはパークボランティアが同じく照射をしながら移動しているのがわかりました。しかしもう1本の光が三又付近に確認され何かと思っていたら、すれ違ったパークボランティアから東電小屋が宿泊者サービスでビームライトを照射してシカを見せており一度光を浴びたシカは森に逃げ込み確認数は少ないとの情報を得ました。昨年同じ時期に確認されたシカは104頭、当会が2000年にシカの頭数調査を始めて一晩に確認された頭数としては最大の

数でしたが、今年竜宮～山の鼻間で確認されたシカは21頭でした。

ビジターセンターの話でも今年はシカの確認数が少ないとのことでした。大清水先の林道にシカ侵入阻止ネットが数キロにわたり設置され、日光からのシカが入れなくなった。あるいはワナを警戒しているなど小屋の人たちの意見も様々で理由はよくわかりません。

昨年大江湿原を一面真黄色に染めるニッコウキスゲがシカの食害などで壊滅的なダメージを受け、花の数が極端に少なく訪れた人々をガッカリさせましたが、今年は昨年と比べると花の量は多く訪れた人々を癒したようです。

参加者：伊藤アケミ、亀山良吉、坂本敏子、
鎮目安康、島田富夫、清水博之、
千葉早苗、前田佳胤、松沢 登、

ゲスト：高田順子(今年度養成講座受講)、
竹内桂一(シカ調査参加を機会に入会)

28日(日)尾瀬ヶ原を和服・草履姿の女性が日傘をさして散策していました。また踵の高いサンダル風の靴の若い女性も木道に。さらに鳩待峠～山の鼻間ではハイヒールに超ミニスカートの女性も、捻挫などしなければ良いのですが。

第3回入山指導・添乗解説・資金カンパ活動 ～第2回大江湿原ニッコウキスゲ開花状況調査～

福島側担当理事 円谷 光行

1. 日時：7月19日(日)～20日(月) 7時～11時
2. 場所：尾瀬御池～沼山峠(会津バス添乗にて)
3. 第2回状況調査：18日(土) 10:30～11:35
4. 資金カンパ活動金額：24,700円

7月の活動は、通常活動のほか第2回シカ食害状況調査と磯部副理事長の依頼による「尾瀬ハイキング」団体の尾瀬ガイドの依頼があり、多くの指導員の参加を頂いて行われました。

新聞報道により、大江湿原のニッコウキスゲの開花状況は昨年より良くなっていると報じられたため、昨年と同時期の連休日に重なるため大混雑を予想され19日(日)の木道でのシカ食害状況調査実施は磯部理事長と協議した結果、ハイカーに迷惑をかけるため無理と判断して、18日(土)の集合時間を早めて午前中に調査をしました。

調査方法は前回同様の方法により行いました。大江湿原入り口から小沢沢田代分岐点までの開花状況では、シカ食害によりニッコウキスゲは全滅に近い状況でした。今年は環境省のシカ捕獲の特別許可が出され、その駆除の影響か小沢沢田代分岐点からは徐々にニッコウキスゲの花が尾瀬沼周辺まで多く咲いていましたが、かつての大江湿原がニッコウキスゲの花で賑やかになる光景にはほど遠い状況でした。よって今年以上に捕獲対策を強化推進して行ないと、その素晴らしさはまだまだ再現できないと思いました。

また、須賀川市仁井田公民館主催の「尾瀬ハイキング(45名)」のガイドを5名の指導員が、沼山峠から尾瀬沼ヒュッテまでの往復で、尾瀬の自然の美しさや種々の草花の特徴、ネットワークの活動も説明しました。参加者からピンバッジ募金をして頂いたほか、13,000円ガイド料を頂きました。

参加者：磯部義孝、高橋 喬、初谷 博、坂本敏子、深山美子、大橋文江、伊藤アケミ、小林ミヨ、藤田隆美、円谷光行、



大江湿原「シカ被害調査」

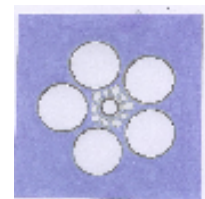
～尾 瀬 自 然 講 座～

尾瀬の植物(3) 初秋の湿原を彩るウメバチソウ(梅鉢草) ユキノシタ科 多年草

北半球の温帯から亜寒帯にかけて広く分布する。特に、東アジア北部、シベリア、アラスカ、ヨーロッパ等に良く見られる。これほど広範囲にわたって分布する種も珍しい。日本では北海道から九州にかけての(沖縄を除く)山野や、日当たりのよい草地や湿地に生育する。

根生葉は長い柄の先にかたまっつき、茎葉はハート型で1枚。初秋のころ茎の頂きに白色で緑色の脈が目立つ清楚な花をつける。花は、がく片5枚(緑色)、花弁5枚、雄しべ1個から構成されている。更に雄しべと雄しべの間には先が細かく糸状に裂けた「仮雄しべ」5本があり、先端には球状で黄色の腺体がつき、大変華やかに見えます。仮の雄しべなので花粉も密も出しません。昆虫を誘うためと考えられています。

本雄しべ5本は1本ずつ順番に花粉を出し、最後の雄しべが花粉を出し終えた後に雌しべが開き受粉が可能となります。



家紋の「梅鉢紋」

ウメバチソウは、雄性先熟の花であり、果実は蒴果で、熟すと4裂し細かい種子をはじき飛ばします。

和名は花の形が天満宮や加賀藩前田家の家紋である「梅鉢紋」に似ているところから名付けられました。

湿原に咲く小さな花も生態を知ることによって、様々なことが見えてきます。ルーペを持って観察しましょう。

参考資料：日本の野生植物・平凡社、山に咲く花・山と溪谷社、野山の植物・小学館、日本の野草・小学館、野草の名前・山と溪谷社、花図鑑野草・草土出版

(深山美子)

＝お知らせ＝

《新入会者紹介(敬称略、あいうえお順)》

岩本光燮、岡田 岳、鹿野キミイ、黒木弥生、小鮎守、桜井伸明、高田順子、竹内桂一、中山勝良、松村一徳

《訃報》

長いこと、会報誌発行にご尽力くださいました島上 健様が、5月17日にご逝去なさいました。ご生前のご協力に感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

《お礼》

- ①国立市にあります私立「桐朋中・高等学校」様より、ご寄付を頂きました。
- ②携帯電話基地局設置反対署名運動の活動費不足分を、「尾瀬を守る会」より補充して頂きました。

事務局だより

- ① 5月18日 OMC20年度収支報告書提出 大橋

- ② 5月22日 活動報告書を都庁へ提出 椎名
- ③ 6月 3日 会報発送 椎名、鎮目
- ④ 6月11日 島上さん宅へ弔問 坂本、椎名
- ⑤ 6月22日 尾瀬を守る会 高橋、椎名
- ⑥ 6月22日 総会報告書発送 伊藤、大橋、鎮目、前田(悦)、前田(佳)
- ⑦ 7月21日 至仏山環境調査専門委員会を傍聴 永島、椎名

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.12 No.2号 2009年8月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康

Web担当：島田 富夫

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203 (株)SEC 内

電話 03-3581-0321 / FAX 03-3581-2178

Web : http://www.geocities.jp/oze_net/

